

令和7年

川崎町議会定例会6月会議のご案内

開催日 6月10日(火)～6月13日(金)

開催場所 川崎町役場 議場(3階)

◆第1日目 6月10日(火) 午前10時～

- ・再 開
- ・町長あいさつと行政報告
- ・報告案件 川崎町税条例の一部を改正する条例の専決処分（ほか6件）
- ・委員会報告 所管事務調査報告

◆第2日目 6月11日(水) 午前10時～

- ・追跡質問
 - ・一般質問
- ① 佐藤 昭光 議員 ② 佐藤 清隆 議員 ③ 眞幡 善次 議員
④ 大本 治久 議員

◆第3日目 6月12日(木) 午前10時～

- ・一般質問
- ⑤ 佐藤 新一郎 議員 ⑥ 的場 要 議員 ⑦ 高橋 義則 議員
⑧ 佐々木 昭雄 議員 ⑨ 下斗米 麻子 議員

◆第4日目 6月13日(金) 午前10時～

- ・条例改正
 - ・補正予算 令和7年度川崎町一般会計補正予算
 - ・固定資産評価審査委員会委員の選任
 - ・閉 会
- 問い合わせ先 議会事務局
電話：84-2301

町政を問う9人の議員が質問

一般質問要旨

通告第1号 佐藤 昭光 議員

1) 令和の米騒動

令和6年産米が流通不足になり、価格高騰が続いた。これを受け、当町は令和7年産米の生産目安を34ヘクタール増産に設定した。そこで次の点について伺う。

- ① 宮城県農業再生協議会の提示を受け、7年産米を前年比34ヘクタール増の604ヘクタール、生産量3,012トンに設定した。可能にするために必要とされる対策、また障害になる要素は。
- ② 米不足による価格上昇は当町も同様のようだ。どう見ているか。
- ③ 米は当町の主要産業であり、「米作継続のためにも価格は下がらないでほしい」という生産者の率直な声も聞く。どう考えるか。
- ④ 米不足の要因に、成長を阻害する高温障害が挙げられている。町はどうなのか。
- ⑤ 高温障害は食味にも影響しているといわれる。当町の食味への影響をどう考えているか。
- ⑥ 米産地では高温対策米への移行が進んでいる。当町の進捗状況は。

[次ページへ続く](#)

一般質問要旨

通告第1号 佐藤 昭光 議員

2) 水道管の衛星調査

- ① 人工衛星による水道管調査、今後の計画は。
- ② 川内地区における水道管の漏水は判明するのか。これまでの損失額は。
- ③ 施政方針で「料金体系の適性化」をうたっている。どういうことか。

通告第2号 佐藤 清隆 議員

1) 小中学校の再編統合計画について

昨年5月の議会全員協議会で、町内の小中学校の再編計画案が示された。説明のなかで各校における現在の生徒数、少子化に伴う今後の予想される入学者数等からも、やむを得ない判断だと受け止めた。その後、対象となる学校の保護者や地域の方々へ説明会が開催された。そこで次の点を伺う。

- ① 対象となる各校に示された再編計画案は。
- ② 再編計画案に対し、意見の集約の仕方は。
- ③ 今後の再編計画の時期、進め方は。

通告第3号 眞幡 善次 議員

1) どうなったスキー場跡地の利活用は

昨年1月に突然スキー場閉鎖が打ち出されて以降、検討委員会を立ち上げ跡地利活用を考えてきた。令和6年9月2日から10月31日までの募集に3社から応募があり、2社に対し活用事業公募提案審査委員会で審査され、令和7年2月21日に結論が出ている。議会には一度の説明のみで、その後の状況は伝わってきていない。そこで次の点を伺う。

- ① 審査委員会で審査され、町との優先交渉権を受けた事業者との交渉はどのように進んでいるのか。
- ② スキー場廃止に伴い、サマーゲレンデ施設などに要した辺地債の返済義務は発生しないのか。
- ③ スキー場設備のリフトや管理棟等は適切に管理されているのか。1年以上放置されているのでは。

通告第4号 大本 治久 議員

1) 国道286号整備を契機とした町の将来ビジョンについて

当町が長年要望してきた国道286号（仙台市太白区赤石～基石間）のバイパス整備は、令和11年度の開通が予定されている。そこで次の点を伺う。

- ① 〈地域資源活用の方向性について〉バイパス整備により今後、観光・農業・自然などの地域資源をどのように、まちづくりに活かしていくのか。
- ② 〈通過交通を町の誘客・回遊につなげる戦略的活用について〉サイクリングや農業体験、森林の散策などの回遊ルートの形成や、通行車両向けの案内看板・QRコード等を活用した情報発信を含め、誘客施策を進めていく考えは。
- ③ 〈将来ビジョンの形成に向けた町民・民間・広域連携の展開について〉これまで町民参加や地元事業者、他自治体との連携にどう取り組んできたか。現状を踏まえ今後の展開は。

通告第5号 佐藤 新一郎 議員

1) スーパーマーケット誘致に向けた支援措置の検討について

町唯一のスーパーマーケットが今年2月に閉店し、町民の生活に大きな影響が出ている。特に高齢者や車を持たない町民、町外まで運転ができない方などから不安と心配の声が多く届いている。今後スーパーマーケットの誘致など、町としてどのような対応となるのか伺う。

- ① 出店予定の企業は開店未定と聞いているが、町と企業との調整や開店までのスケジュールを伺う。
- ② 買い物支援バスを運行しているが、運行状況と利用者数は。
- ③ 一日も早くスーパーマーケットを開店していただく施策として、町税の猶与や減税措置等の支援策を検討すべきと考えるが、見解を伺う。

通告第6号 的場 要 議員

1) 小中学校の「まちづくりへの学び」について

国道286号バイパス建設南赤石工区は、昨年度より橋梁上部工工事に取り掛かり、工事の進捗が目に見えてきた。このバイパス工事は、今後のまちづくりに欠かせない役割を持っていると期待している。

これまで、仙台市・川崎町広域行政連絡協議会等での現地視察も行ってきたが、この現地視察を町内小中学校の児童生徒にも是非体験してもらいたいと考える。

実際に現地に立った児童生徒の目線からの「見方・考え方」に興味もある。次の時代を担う子どもたちに「まちづくり」を考える機会と関心を持ってもらうため、校外学習の一環として取り組んでいくべきと考えるが見解を伺う。

2) クールビズ・ウォームビズの通年化導入について

これまで、5月から10月までの期間でクールビズを実施してきた。現在も継続しているが、ここ数年全国的に通年化を推進する自治体が増えてきた。導入に際し、TPOをわきまえ、町民に対して不快感や場違いな印象を与えることのないよう十分な注意は必要だが、留意事項等をしっかり定め運用することで、より労働環境・生産性の向上につながるものと考えている。

通年化により省エネや節電対策等、地球温暖化対策の一環としての役割を果たすことにもつながると考えるが見解を伺う。

通告第7号 高橋 義則 議員

1) 太陽光発電設備設置に関しての注意点は

現在、自然エネルギーとして水力、風力、太陽光などが改めて見直されている。土地は持っているが利用目的がないため貸したい、売りたい、などと思う人たちがいる。しかし、貸借や販売に対して不安がある。そこで次の点を伺う。

- ① 太陽光発電の設置に関して相談窓口はあるのか。
- ② 農地や雑種地などを貸す場合や販売に関して、どんな点に注意して交渉したらいいのか。
- ③ 町内には多くの設置の話はあるが、自然または生活環境などに影響はないのか。
- ④ 町にとってのメリットやデメリットはどんなものがあるのか。

2) 農業従事者及び産業小規模従事者並びに職人の紹介を

各事業のなかで人材不足や職人のなり手不足、そして農業などのなり手不足が大きな問題である。当町には魅力ある職業がたくさんあると思う。そこで次の点を伺う。

- ① 家屋が壊れた場合、身近に頼める人がいないために困っているなどの話がある。仕事があるのに職人がいない状態だが、その魅力と必要性を紹介するパンフレットなどはあるのか。
- ② 町内で現在取り組んでいる産業や職種などはあるが、次の世代にも引き継ぐものがたくさんあると思う。若者の思考は違うかもしれないが、紹介し新たな後継者を育てることはできないのか。
- ③ 若者に各産業、事業、職種など、川崎版魅力ある仕事紹介を作り、PRすることはできないか。

通告第8号 佐々木 昭雄 議員

1) スキー場跡地利用について

スキー場跡地利用について以下の点を伺う。

- ① 優先交渉権を得た企業と計画どおりに調印できなかった理由と、スキー場施設をいつ、どのように活用する方針か明確に伺う。
- ② 私がヒヤリングした地権者は全員早期利活用推進派だった。町が把握している慎重意見は何名か。
- ③ 本年3月末に地権者説明会の開催時期を確認した際、東北財務局等との調整で2～3カ月時間を要するとの回答だった。いまだに開催されない理由はなにか。
- ④ 町は施設優先交渉権を得た企業に施設を貸して、業績不振など発生した場合の町側のリスクを話す、スキー場施設を活用しない場合のリスクについて、想定される比較金額の正確な提示を。
- ⑤ 冬の働き場所がなくなり本当に困っている人たち、飲食店や宿泊業も大変とのこと。町のリスクを慎重に検討するのは理解できるが、町全体の計り知れない経済損失はどう考えているのか。
- ⑥ 5月26日の議会全員協議会において、スキー場におけるケーブルなどの盗難被害について報告があった。町が把握している被害額はいくらか。防犯対策が不備だったのではないか。さらに、4月から利活用がされた場合、施設管理もされ抑止力が働き盗難事故が未然に防止された。または、被害額はここまで大きくならなかった可能性もある。町が慎重に進めた結果、大きな被害があった責任をどう考えるのか伺う。

通告第9号 下斗米 麻子 議員

1) 町民の健康づくりと地域資源の利活用について

現在、当町の山城遺構等には散策ルートが設けられており、高齢者から上級向けのトレイルまで幅広い年齢層などが利用できるよう工夫されている。

最近、土の道や傾斜を利用してウォーキングすることで、足腰への負担を減らしながら筋力を鍛え、心拍数を管理したプログラム「ドイツのクアオルト」というものがあり、導入している自治体もある。

当町ならではの健康づくりに地域資源の利活用は大きな可能性と魅力を持っている。今後は地元ガイドの育成や温泉施設との連携、地元農産物の効果的な提供、歴史解説のさらなる充実のため、当町においても導入すべきと思うが見解を伺う。

2) 各サービス窓口への軟骨伝導イヤフォン導入について

耳周辺の軟骨の振動を通じて音が聞こえる「軟骨伝導」を応用したイヤフォンを、相談窓口に設置する自治体や金融機関、病院などが全国で増えている。

軟骨伝導イヤフォンを用いることで、騒がしい環境下でも必要な情報を確実に伝え、聞き取ることが可能となり、町民の安全確保や避難誘導において、その有効性が期待される。

当町の行政窓口への軟骨伝導イヤフォン導入は、聴覚に配慮したコミュニケーションの実現、業務効率の向上、そして緊急時における迅速な情報伝達といった多岐にわたる利点をもたらす、町民サービスの質の向上が期待される。早期の導入を提案するが見解を伺う。

傍聴に手続きは必要ありません。どうぞお気軽にお越しください。

インターネットによるライブ中継でも視聴できます。

川崎町議会議長 眞壁 範幸